

「食品に関するリスクコミュニケーション（東京）」
アンケートの集計結果

開催日：2004年7月2日（金）

参加者数：208名 回答数：112名（回答率53.8%）

- 問1 ご自身について、ご回答ください。
- | | | |
|------------|----|-------|
| 1) 消費者 | 19 | 16.9% |
| 2) 食品関連事業者 | 48 | 42.8% |
| 3) 食品関連団体 | 18 | 16.1% |
| 4) 研究機関 | 2 | 1.8% |
| 5) 行政関係 | 15 | 13.4% |
| 6) マスコミ関係 | 4 | 3.6% |
| 7) その他 | 6 | 5.4% |
- ・経営コンサルタント
 - ・外食
 - ・食品安全モニター
 - ・他業界団体 など
- 問2 本日の講演会は、何からお知りになりましたか。
- | | | |
|--------------------|----|-------|
| 1) 食品安全委員会のホームページ | 73 | 63.5% |
| 2) 食品安全委員会からのご案内資料 | 18 | 15.7% |
| 3) 都道府県等自治体からのお知らせ | 0 | 0.0% |
| 4) 関係団体からのご案内資料 | 7 | 6.1% |
| 5) 知人からの紹介 | 3 | 2.6% |
| 6) その他 | 14 | 12.1% |
- ・食肉関係の業界紙より、食品安全委員会HPへアクセス
 - ・食品安全モニター会議
 - ・農水省プレリリース
 - ・農水省のメールマガジン（5）
 - ・農水省ホームページ（報道発表資料）（3）
 - ・食の安全トピックス
 - ・業界紙
 - ・インターネット
- 問3 国や地方自治体、業界団体等を行う食の安全に関する意見交換会や講演会などにこれまでどれくらい参加したことがありますか。
- | | | |
|------------|----|-------|
| 1) 今回が初めて | 17 | 15.2% |
| 2) これまでに1回 | 9 | 8.0% |

3) これまでに2回以上 86 76.8%

問4 本日の意見交換会全般についてお伺いします。内容について、十分に理解することができましたか。

1) 理解できた	27	24.1%
2) だいたい理解できた	63	56.3%
3) あまりできなかった	13	11.6%
4) できなかった	1	0.9%
無回答	8	7.1%

追加問4 - 1 (問4で「理解できた」「だいたい理解できた」と回答した方)

内容がわかりやすかった点はどこですか。当てはまるものは全てご回答ください。

1) 説明が明瞭で的確だった	30	24.6%
2) 資料内容が平易でわかりやすかった	37	30.3%
3) パネルディスカッションの討論内容が適切であった	36	29.5%
4) 適切な説明時間が確保されていた	10	8.2%
5) その他	9	7.4%

・司会が上手だった。(2)

・知っているから。

・パネラーができるだけわかりやすい言葉をつかう努力をしていた。

・講演時間をもっと長く。

・BSEの討議、質問への回答など、質疑応答は評価できる。

・内容が平易であった。

など

追加問4 - 2 (問4で「あまり理解できなかった」「できなかった」と回答した方)

内容がわかりにくかった点はどこですか。当てはまるものは全てご回答ください。

1) 講演内容が難しかった(説明に専門用語が多い等)	3	10.3%
2) 資料がわかりにくい	3	10.3%
3) 聞き取りにくい	7	24.1%
4) 適切な説明時間が確保されていなかった	7	24.1%
5) その他	9	31.0%

・ヘルマン・コエター氏の講演はもう少し時間がほしかった。

・委員会の役割、存在理由はわかった。しかしBSE問題は農水省の問題。本音が出ていない。このメンバーでは難しい。

・全体として、意図していることが何かわからない。

・一般傍聴者を募って3省庁名で開催した趣旨、目的意識が何処にあるのか、さっぱり理解できない。食安委の内部会議レベル。

・リスク管理に評価は必要だけど、その後どうすべきか、その先に何かあるのかを知りたかった。

- ・ヘルマン氏の説明時間が短かった。
- ・論点がぼやけていた。説明の趣旨がわからない。

など

問5 食品安全に対する新しい取組みがはじまって1年が経ちました。この1年間で、自治体や政府の食品安全に対する取組みが変わったと感じられますか。又、食品安全に関するあなた自身の考え方や行動など、何か変わったことがありますか。当てはまるものをすべて選んでください。

《自治体や政府の取組みについて》

- | | | |
|--|----|-------|
| 1) 食品安全に関する情報をこれまでよりも多く得られるようになった。 | 87 | 22.4% |
| 2) 問い合わせや相談の窓口が利用しやすくなった。 | 18 | 4.6% |
| 3) 政府や自治体の食の安全に関するホームページが以前より見やすくなった。 | 41 | 10.6% |
| 4) リスク管理とリスク評価が分かれたことにより手続きが複雑になり、わかりにくくなった。 | 8 | 2.1% |
| 5) 市民や住民、事業者との意見交換がよく行われるようになった。 | 25 | 6.4% |
| 6) 事業者の衛生管理や品質管理に対する監視や指導がより強化された。 | 39 | 10.1% |
| 7) 自治体や政府の取組みについて、特に変化を感じられない。 | 12 | 3.1% |

《あなた自身について》

- | | | |
|---|----|-------|
| 8) 食品を購入したり、食べたりする時に、安全性を意識するようになった。 | 35 | 9.0% |
| 9) 食品安全について、家族や知人と話すことが多くなった。 | 48 | 12.4% |
| 10) 安全性が不安な食品について、情報を得て、自分なりに安全性を考えるようになった。 | 30 | 7.7% |
| 11) 食品安全行政のしくみが変わり、以前よりも安心できるようになった。 | 18 | 4.6% |
| 12) 自分自身について、特に変化は感じられない。 | 24 | 6.2% |
| 13) その他(上記の選択肢以外) | 3 | 0.8% |

- ・情報は多く入るようになったが、整理されていないと感じる。
- ・無用な施策も増えた。たとえば農水のトレーサビリティ。厚生の特レサの考え方に統一すべき。
- ・今までは厚労省と農水省のみを注意すればよかったのが、3省になり、コンプライアンス上、大変になった。

問6 問3でこれまで参加した意見交換会や講演会が複数回ある方にお聞きします。過去1年間でご自身が参加して一番良かったと感じた意見交換会や講演会を1つお書き下さい。(主催者は問いません)

- ・ 昨年9月頃に開催された 政府 BSE 調査検討委員会から誕生した食品安全基本法制定までの経緯
- ・ 昨年12月頃に開催された 輸入食品の監視指導計画案に関する意見交換会「大阪」
- ・ 2月頃に開催された 鳥インフルエンザワクチンについて
- ・ 4月頃に開催された BSE に関するリスクコミュニケーション
- ・ 5月頃に開催された 牛肉シンポジウム
- ・ 5月頃に開催された 食品リスクコミュニケーション
- ・ 5/18に開催された 食の安全・安心シンポジウム「恵比寿ガーデンルーム」
- ・ 5月頃に開催された 食の安全に関するパネルディスカッション。酒井ゆきえさんが司会。
- ・ 6月頃に開催された 恵比寿ガーデンプレイスで行われたパネルディスカッション
- ・ 6/30に開催された 残留農薬に関するリスクコミュニケーション
- ・ 食品表示に関する合同会議
- ・ 6月頃に開催された 食品安全モニターの講演会
- ・ 6月頃に開催された 厚生、農水、リスクコミュニケーション「三田共用会議室」

問7 今回の意見交換会についてご意見・ご感想などございましたら、ご記入ください。また、リスクコミュニケーションに関するご質問・ご意見などもございましたら、あわせてご記入ください。

- ・ マスコミの言い訳の場になりすぎて残念である。パネリストは一種のコミュニケーターであるのであるから、科学的な内容を正しく我々に伝える努力をしてもらいたかった。BSE以外にも、食の安全性に関してもっと優先度の高いリスクが存在する。BSEばかり騒ぐのはいかなものか。
- ・ 各分野での本音に近い言葉が聴けて良かった。
- ・ 委員長の顔がよくみえて来た。今後は各委員とも持ち所をPRして下さい。
- ・ 十分リスク分析・評価がなされていないものまで規制し、後に事件とすることはさけてほしい。
- ・ BSEは過剰反応だと思う。マスコミが作りあげたもので、大変な損失を出している。もっと重要な事にお金を使ってほしい。
- ・ 重要な点が大きく二つあるように思われますので、今後積極的に行って頂きたい。食品安全情報のわかり易い伝達。食育・食の安全に関する教育。
- ・ この一年は、食品安全委・事務局・農水・厚生関係者にとって大変な一年であったことと思います。同時にこれはリスクコミュニケーションの始まりであり、これを良く拡大し染めていく必要があると思っています。その為には、より効果的に送り手と受

- けて間の理解のあり方を改善することが重要であり、認知心理学、社会心理学に於ける専門家の出席、サポートが必要と考えます。
- ・会場が良くなかった。ノートがとりづらい。椅子がかたい。おしりが痛かった。そのあたりを配慮して下さい。荷物のやり場にも困った。
 - ・食品安全委員会自体を国民に認知させるコミュニケーション不足と感じる。それが第一では。
 - ・事前に質問を収集し、まとめてご説明されたらどうかと思います。
 - ・「消費者の声・意見」とは何かについて考えさせられました。 広く国民の声をひろい上げるシステムが必要と思われまます。「食育」の重要性を再認識しました。
 - ・食品安全委員会の役割について、リスク評価の内容がどこまでどのように各、その管理、実行する省庁の行政に反映される効力があるのか。 勧告の限界。
 - ・意見交換の時間が長くてよかった。
 - ・このような機会は今後も継続して、国(行政)の考えを消費者に伝えていただきたい。
 - ・リスクコミュニケーションという言葉がとっつきにくくていけません。わかりやすい平易な言葉にならないものですか。
 - ・今回はリスクコミュニケーションという、食品全体をいろいろな角度からということなので、今後はBSEというような具体的テーマについてやるべき。
 - ・これまでの取組、考え方については良く判った。「～これから」という演題なので、1年の総括と今後の取組について聞きたかった(3行政機関)。後半のパネルディスカッションは非常に良かった。
 - ・総論に終始した感がある。
 - ・一般消費者からのアンケートなどもっととって意見に反映すべきでは。大学教授などとのつながりがあるならば、若者へのアンケートなども容易にとれるはず。消費者団体では若者の意見を反映できていない。もっと広い所から意見を。意見をえるのは受け身ではいけない。ホームページなどは関係者しか見ないので、自ら意見を求めて下さい。
 - ・会場がせますぎる。
 - ・ヘルマン・コエターさんのお話を全部聞きたかった。BSE検査について米国牛を購入していないのは、知りませんでした。
 - ・情報提供の難しさ、表現力、見せ方等にまだまだ努力不十分です。わかっている人はもっと上手に伝える努力が必要なのではないでしょうか。
 - ・会場がせまい。世界的なリスクコミュニケーションでの場の連合会議の成立。
 - ・安全委員会の1周年記念パネルディスカッションとは言え、メンバーの選任も問題あり。
 - ・一般の人にとって“リスクコミュニケーション”という言葉は非常に分りにくいと思います。「食品安全への人々の理解を深めよう」と考えるならば、この辺から直していく必要があると思います。パネルディスカッションの人選(含むコーディネーター)は適切であったと思います。他の講演会より、この点は良かったと思います。
 - ・今回のパネルディスカッションが最もわかりやすかった。よく理解できた。

- ・パネルディスカッションがおもしろかった。わかりやすかった。緊急性のあるリスクについてのみで終わったように思いますが、そうでないものについても、またこういった形で聞くことができたらいいと思いました。
- ・食の報道は正しくあってほしい。必要以上に消費者を迷わせているのではないか。
- ・会場が悪い。スクリーンが後の席からは見えない。大人数であればきちんとスクリーンが見えるような会場にしてください。参加ハガキの地図もわかりにくい。駅からどれ位かかるのか、もう少し説明があっても良いのでは。会場からの意見をとり上げる時間を増やしてほしい。コエターさんのお話ももう少し聞きたかった。
- ・行政、マスコミの発表への不信。
- ・コエター氏の時間、30分では明らかに不足。もっと聞きたかった。通訳は良くない。パネルディスカッションは、いつも今日くらいの活発さが欲しいです。
- ・今回EUの説明ははっきりしなかったが、BSE関係の質疑応答は非常に良かった。
- ・ずいぶん前に参加したときは、安全委・厚労・農水の説明だけで終わっていたが、今日はコーディネーターをはじめ様々な立場の方のお話がきけておもしろかった。コエター氏の講演の中で、消費者が理解することがリスクコミュニケーションだのようなことがあったかと思えます（確か）。日本でもぜひ行って行って下さい。情報を出したというだけになっているような感じもします。
- ・全般的に抽象的。焦点が定まらなかったような印象。
- ・今回のパネルディスカッションは聞いていて面白かったが（特に後半のBSEはタメになったが、それを別とすると）、今まで何度かこの種の意見交換会を聞いた時と同じで（1年たっても同じで）、いつも同じような具体性に乏しい概念論に終始している。入口論に止まらず、何に対してコミュニケーションを構築したいのか、テーマを各回毎に明確にした上で論議して頂きたい。参加者の判断基準のバリエーションが広がるように！後半のBSE討議のように！
- ・業界としては、リスクコミュニケーションに理解が進んでいると思いますが、消費者団体（一般消費者）に対してもっと理解を求めるべき。その後に、消費者の選択の権利に任せてもかまわないのでは。
- ・パネルディスカッションの日米BSE問題の部分。もし進行にシナリオがなく、コーディネーターに進行をまかせていたのであれば、やはり一番思い込みが激しいのはマスコミであり、リスクコミュニケーション分析手法のプロセスについての理解と、行政からのトレーニングが必要ではないか。今日のやりとりは、スクープを取りたいための芸能レポーターとほとんど振る舞いが同じだった。
- ・安心に関わるマスコミの責任は非常に大きく、コーディネーターがマスコミ関係者であるのは好ましくない。
- ・BSEの発生以降、各国はリスク管理を模索しているところであり、今回の講演で類似の展開が図られていることを感じた。今後も国際的な歩みよりとともに、各国文化の違いという科学的評価以外の観点をふまえながら、審理を進めるべきと考える。
- ・リスクコミュニケーションが必要となった本当の理由は何でしょうか。今後の人口増加～食料の安定供給問題などを見越し、これからのあきらかになるリスク等を業界各

- 社、消費者、行政に対して提言する組織になって欲しい。
- ・もう少しE F S Aについて聞いたかった。やっぱり時間が足りなかった。
 - ・寺田委員長自らが質疑応答することに好感を持った。司会進行、各パネリスト、質疑といい感じを持って終わったと思う。最後のあいさつは簡単に。
 - ・何よりも大事な点は、一般の人に分かりやすい言葉でやり取りすることで、比較的その点では良かったのでは。
 - ・各業界の意見がきけて参考になった。マスコミの対応、報道の仕方については考え直すべきではないかと考える。
 - ・Mediaを活用した広報活動が必要。今回の活動を報道に依存するのではなく、積極的に外に向けて流すべき。さらに生産者をも含む食と農を合わせた日本の食の問題に発展させよ。(自給率の向上が安心の増大のひとつでは?)
 - ・公聴会と同じで、行事として実施しているだけの感がある。
 - ・肝心なところはハグレが悪い。
 - ・リスクコミュニケーションのバージョンアップの見通しを示しながら、現時点で行いうるコミュニケーションを遂行する必要がある。意見を聴く、情報を与えるというレベルから、いっしょに考える、いっしょに決めていくというレベルアップを行うことが重要と考える。
 - ・科学的根拠に基づいて判断することは、原則的・根元的に必要で重要なことです。評価も管理もここからぶれてしまっはいけないと思います。
 - ・本日のテーマはしかし、科学的判断だけで措置したのでは、消費者は安心しないというものでした。それを解きほぐすヒントは、安全 + 信頼 = 安心です。信頼がゆらいでいるから、ゆらいだから安心できない状態が続いているのです。ここをごまかしてしまうと過去のあやまちをくり返すことになります。
 - ・不信を招いたのは何だったかの認識が一致していないと感じます。現在、農水・厚労省の信頼の回復はその途上です。米政府の押しつけとも強引とも映る解禁の要求の執拗さも、不信の種です。米の検査、と蓄場、トレーサビリティ等のずさんさも不信の元です。信頼は元々あるとの前提で対処すれば、二重の信頼喪失になっていくことを肝に命ずるべきと考えます。
 - ・まずやらなければならないのは、上記のような信頼を損ねている事態を誠実に受けとめ、信頼回復のための仕事、作業、努力をすることです。全頭検査の無意味さを前面に出して、信頼回復の取組を回避してはならないと思います。
 - ・コエター氏以外の方々の話が聞きとりにくいことが多かった。コミュニケーションには当然、こうした会での「話し方」等も大切な要素なので、出席者の選考等、留意して頂きたい気もしています。
 - ・寺田先生：お立場上からか、なかなかはっきり言って頂けない点が少しもどかしいです。Dr. コエター氏のお話、特にパネルディスカッションで特にわかり易かった。能勢氏のマスコミの取り扱いに対する意見は、消費者側から見ても不安が増すことは確実でした。政府の対応等、具体的コメントをきちんとはっきり取ってほしいと思いました。

- ・ 本人の意見交換会でもあった通り、消費者とのリスクコミュニケーションとして、Webでの情報公開や会の開催だけでは特定の消費者（積極的消費者）とのコミュニケーションではないでしょうか？NHKで情報（食品安全委員会の活動）を提供（定期的に）してもらえれば、消費者のすその広がるように思います。これからも食の安全のために、公正な立場でリスク分析、評価をお願いします。今回の題目と、後半の（BSE）話題が少しずれてしまったようで、関心の高さは分かるのですが、それは別のリスクコミュニケーションで取り扱っていると認識しています。コーディネーターの方も、BSEの話を取り入れながらも、題目とはずれないようにしてほしいです。
- ・ 机のある会場が好ましい（メモをとりにくい）。欧州の講師の講演はもっと長時間とる配慮がないと失礼と思う。（なぜ急かせるか。）
- ・ 今回は有意義だった。残念なのは、業者としては生き残りもあると思うが、消費者不信の“犯人の一人”は食品業界であったことを自覚していないようだ。
- ・ コミュニケーションといいながら、主催者側からの一方通行が多いと思う。例えば、参加予定の人から事前に意見を出してもらい、その内容に沿って会を進めるようにしてはどうか。会を始める前、2ヶ月前位から、案内を出すなどして、本来のコミュニケーションが取れるようにしてはどうか。
- ・ 今回の会は意見交換会にはなっていません。一方的な話ばかりでした。しかも論点がぼやけていて、意味不明の説明が多かったです。
- ・ 食品と言っても、BSEから添加物、農薬etc.と関心の度合いで人の熱さがちがすぎる。多くはマスコミがとりあげたものを消費者個人は熱くなり、その後、行政がリスク評価を行ったとしても、行政の発信の手法ゆえか、消費者がひえているせいか、マスコミがとりあげないからか...、評価の結果は届かないし、良くされていない。もったいない！！マス媒体の活用法をもう少し工夫しては？NHKの夕方や昼にコーナーを常設して伝えつづける努力をしてほしい。

問8 今後、食品安全委員会におけるリスクコミュニケーションとして行ってほしい取り組みは何だと思われますか。当てはまるものを全てお答えください。

1) 有識者による講演会（質疑応答含む）の開催	39	16.9%
2) 基調講演やパネルディスカッションを盛り込んだ意見交換会の積極的な開催	61	26.4%
3) 食品の安全に関する平易で基礎的な勉強会の開催	45	19.5%
4) 参加者全てが発言できるような、少人数の座談会の開催	18	7.8%
5) 消費者、生産者、事業者が意見をいつでも言える窓口の設置	38	16.5%
6) 地方における意見交換会の開催	17	7.4%
7) その他	13	5.6%

- ・ 潜在リスクの発掘（国内・国際）や考え方をテーマとしたような討論会。
- ・ 各新聞一面を設ける、消費者に親しみやすい人物の説明を実施する。

- ・広報活動(one wayのcommunicationして満足していないか)
- ・意見に対する回答を必ず返すことが重要。
- ・マスコミを交えて正しい情報を伝達する機会。
- ・いたずらに不安をあおって稼ぐ悪徳マスメディア対策。
- ・地方の生産者、製造業者の安全意識の向上。
- ・マス媒体(できれば全国紙、全国放送)での情報発信。

問9 今後の講演会や意見交換会で取り上げてほしいテーマは何ですか。当てはまるテーマを3つまで下記から番号でお答えください。

《テーマ》

1) 残留農薬に関するテーマ	36	11.8%
2) 食品添加物に関するテーマ	29	9.5%
3) 遺伝子組み換えに関するテーマ	30	9.9%
4) 食品中に混入する汚染物質に関するテーマ	22	7.2%
5) 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質)に関するテーマ	27	8.9%
6) 有害微生物に関するテーマ	21	6.9%
7) 輸入食品に関するテーマ	48	15.8%
8) 食品表示に関するテーマ	57	18.8%
9) リスクコミュニケーションに関するテーマ	34	11.2%

問10 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んで下さい。

1) 委員会や専門調査会の傍聴が可能なこと(原則公開とされていること)	75	16.8%
2) 委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録の公表(食品安全委員会ホームページ上)	74	16.6%
3) 食品安全委員会ホームページ	98	22.0%
4) 食の安全ダイヤル	39	8.7%
5) 食品安全モニター	47	10.5%
6) 食品安全委員会の行うリスク評価案件に関する意見募集及び寄せられた意見に対する考え方のホームページ上での掲載	44	9.9%
7) 食品の安全性に関する政府広報(鳥インフルエンザ等)	66	14.8%
8) その他	3	0.7%

- ・専門調査会の傍聴
- ・食品安全委員会のパンフレット。

問11 過去1年間の食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省の取組みのうち一番良かったと思うものは何ですか、又、良くなかったと思うものは何ですか。もしあれば具体的にお書き下さい。

<良かった点>

- ・ 解り易く説明された事（今回）。
- ・ 残農等におけるポジティブリスト制導入。
- ・ アマメシバの対応。
- ・ いろいろな情報が短い間にまとめられ、発信されるようになった。
- ・ ホームページなどにより、情報公開がよくされるようになった。
- ・ ホームページでのQ & Aの徹底。
- ・ 食品表示共同会議を設け、制度間で異なる表示義務について、考え方の統一をし、具体的方法をQ & Aとして示したこと。
- ・ 欧州食品安全庁のあり方と日本の体制が比較でき参考になった。日本の食品安全委員会も努力しているが、なかなか国民には伝わらない点もある。
- ・ 各省の連携は県段階にも反映されてきたこと。パブリックコメント等のシステムが確立してきたこと。
- ・ トレーサビリティシステムの確立。電子メールの情報提供。
- ・ 政府全体として取り組んだ鳥インフルエンザ発生時への対応とその後フォロー。
- ・ こういう地道な取り組みでしか変わらないものもあると思われます。これからもしっかりお願いしたい。
- ・ 鳥インフルエンザの鳥の処理。
- ・ 食への関心が安全へ向いてきた（ような気もする）。
- ・ 情報公開が増えたこと。特に農水（消費安全局）が積極的と感じている。
- ・ 特になし。
- ・ 食の安全を議論する場が増えた。
- ・ 米国へのBSEへの徹底した全頭検査の要求。
- ・ 鳥インフルエンザ発生時の不活性化ワクチン不使用の措置。
- ・ BSE、鳥インフルエンザ等、国内で始めてのものに対する不安を活性化された点は良かった。（特に国として「国民の皆様へ」との広報が新聞掲載された点。）一般消費者は常時インターネットで貴会のホームページを読んで居られる状況の人は大変少数で、一般報道（テレビ、新聞等）で不安が増したりすることが多い。
- ・ 鳥インフルエンザの対応。
- ・ 理解出来た。
- ・ 食に関する事件が起きた際、...鳥インフルエンザ、豚コレラ、ジオキサン...科学的に害がないことを強く公表するようになったこと。いかんせん国民一般は理解できない人が多い。
- ・ 鳥インフルエンザの対応。米国BSEの対応。行政の食品安全への一本化。

<悪かった点・改善した方がよいと思う点>

- ・ EUのシステムはやはりはっきりしなかった。
- ・ 残農等におけるポジティブリスト制や、アレルギー表示における法のみでの先行。現状を把握できていない（方法がない）上での基準値設定。

- ・鳥インフルエンザ、コイヘルペスの対応。
- ・食品メーカー事業者の立場からすると、これまでは問題にならなかった表示問題、あるいは摘発淘汰など（米 DNA、乾椎茸 e t c .）、消費者重視のとりくみは理解できませんが、重箱の隅をつつくような感じがします。
- ・ただし、本当に興味を持って情報収集に努めているものでないと、その情報を得ることができないこと。
- ・食品安全委員会が単なる追認機関になっていること。
- ・マスコミを通して、国民すべてに伝わるようにすべきではないでしょうか。消費者はマスコミの報道の伝え方によって大きく反応が違って来る。例えば、2001年9月のBSEの報道は特にひどかった。今年のトリインフルエンザも同じ。
- ・マスコミの利用が不十分。「リスクがゼロでない」という考え方の定着が足りない。取り組みの主張も大切だが、何かあった際の体制が具体的でない。残留農薬分析 その後の公表体制など。
- ・牛肉のカクリのゴマカシに対してチェックが甘い。
- ・消費者のボトムアップへの努力不足。食品安全委員会以外の傍聴の希望者が多く、傍聴の希望にそえない場合が多い。広い傍聴席を。
- ・米国BSEについて食品安全委員会、厚生労働省、農水省の連携、それぞれの役割がはっきりしないまま現在に至っており、何が問題で、どうしたらよいか不透明と思われる。
- ・事前登録した人以外の参加者が多いように感じられた。会場が少しきゅうくつだったため。
- ・特がない。
- ・消費者（団体関係者ではなく）をあまりすぎて神経質にさせすぎないように。この組織の存在の理由を正しく理解されず、どうも不安を増大させているような気もする。（組織があるということは、不安もあるのではという連想。）
- ・マスメディアの独善的な報道に頼らず、行政から正確に確実に情報が伝わる工夫。食安委ホームページが見にくくなった。字を大きくし、見やすくすることを強く要望。食品安全委員会が設置されてから、行政責任が不明確になった。
- ・食品安全委員会はもっと前面に出たほうがいい。農水や厚労省の陰になりがち。一般の人はほとんど知らないと思うので、報道発表などでもっと発言すべき。農水や厚労の顔をうかがわないでリスク評価を。
- ・マスコミを通しての情報の伝え方。
- ・マスコミに対する教育がなっていない。
- ・鳥インフルエンザ不活性化ワクチンの使用に関する意見募集案文の2つの前提条件の発表の仕方。
- ・上に関連して、平易な言葉でもっと一般消費者に何が危険で現状はどうなのか、国として今後このような取り組みをする予定である等々、行政とタイアップして広報をきめ細かくしてほしかった。今後は期待をしています。各新聞社は貴会の週間、或いは月間の情報を、一般消費者向けに報道してほしい。何かあった時だけでなく。

- ・農薬残留基準の全ての作物毎に（マイナーに）設定（暫定）してほしい。公定検査法を早く！
- ・あいかわらずの役人天下。まず自分たちのこと、次、「消費者が...」と言って自分の保身。
- ・行政（農水・厚労 e t c .）に対し、もっと強力なイニシアティブがとれないものか！
- ・リスクコミュニケーションを食品安全委に行政は丸投げしている。
- ・信用回復のためにやっているはずの「安全」の取り組みなのに、的確な説明がされな
いままの、何を伝えたいのかわからない一方的な発信が多いため、「飽和状態」にな
っている。
- ・“絶対安全”は何であれ無い、としっかり消費者に伝えるべき。リスクゼロがないよ
うに理解しているのは、何かあった時のお国の「安全宣言」という表現にも問題があ
るのでは。